

水環境・生物多様性保全計画進行管理表

取組みの柱	施策の方向性	指標名	2021年度	2022年度(※1)	(参考)2022年度	2023年度	2024年度				評価		
			基準値	目標値	実績値	実績値(進捗度)	実績値	分析・評価	主な取組み	進捗度	得点	配点	得点率
水環境の保全活用	水環境・水循環の理解の促進	水環境や水循環について理解している市民の割合	水環境: 40.8% 水循環: 42.7% (※2)	100%	水環境: 40.8% 水循環: 42.7% (※2)	水環境: 48.3% 水循環: 54.3% (C)	水環境: 41.3% 水循環: 50.1%	基準年度より増加したものの前年度より水環境は7ポイント、水循環は4.2ポイント減少した。目標達成に向けて、さらなる啓発活動の実施が必要である。	・大草谷津田いきものの里自然観察会 ・ふれあい自然観察会 ・水辺いきもの探索隊	C	13	25	52%
	豊かな水辺(河川、海岸、湧水地など)の保全・創出	多自然護岸整備河川等の延長(※3・6)	13,644m (2019年度)	17,449m (2029年度)	13,711m	13,831m (C)	14,011m	二級河川支川都川においてL=180mの河道築造工事を行った。引き続き、河道の掘削を行う。	・二級河川支川都川において、大規模な地盤改良工事の完了に伴い、令和5年度から流域内の浸水軽減を図るために河道築造工事を実施	C			
	きれいな水(水質)の保全	水質環境目標値(生活環境項目)達成率(※6)	61.1% (※4)	100%	76.7%	73.3% (B)	70.0%	基準年度より改善したものの目標値である100%を達成できなかった。主な要因は海域(CODなどの項目非達成)となっている。海域の水質は広域的な課題であることから、周辺自治体等と連携し、汚濁負荷の削減のための施策を推進していく。	[河川・海域共通] ・公共用水域モニタリング調査 ・水質汚濁防止法・環境保全協定等に基づく事業者への指導 [河川] ・大腸菌数が未達成となっている鹿島川に関して、通日調査等で大腸菌数の推移を監視 [海域] ・海域の水質汚濁については広域的な課題であることから東京湾岸の自治体と連携を図りながら、内陸部の生活排水や事業場排水の汚濁負荷の削減についての施策を推進	C			
	水资源の持続可能な利用	単年度沈下量2cm未満の地点数の割合(※6)	100%	100%	100%	100% (S)	100%	2012年度以降、年間2cm以上の沈下は観測されていない。千葉市環境保全条例等による地盤沈下対策が適切に実行されている。	・千葉市環境保全条例等に基づく揚水規制 ・観測井の地下水位の継続観測 ・水準点の高さの測量	S			
	地域の水辺とふれあう機会の創出	自然観察会等の参加者数・開催数(※3・6)	92人 5回	2,450人 140回	307人 14回 (※5)	285人 13回 (※5) (計画期間累計) 285人 13回 (C)	245人 14回 (計画期間累計) 530人 27回	参加者は基準年度よりは増加したものの前年度より約15%減少した。自然観察会では当日欠席者が多く、定員を大きく下回る回や雨天中止の回が2回あったことから、当日欠席者への対策として、一定の当日参加者数を確保するため欠員を見込んで参加者選定を行うなどの対策が必要と考えられる。	・大草谷津田いきものの里自然観察会(11回予定中1回は雨天中止) ・ふれあい自然観察会(2回予定中1回は雨天中止) ・水辺いきもの探索隊 ・稻作体験学習 ・小学生向け現場体験・出張授業	C			
生物多様性の保全再生	生物多様性・生態系の理解の促進	生物多様性について理解している市民の割合(※6)	55.0% (※2)	100%	55.0% (※2)	57.8% (C)	55.9%	基準年度よりは増加したものの前年度より1.9ポイント減少した。市民の生物多様性への理解度を高めるため、普及啓発に係る施策のさらなる拡充が必要と考えられる。	・大草谷津田いきものの里自然観察会 ・ふれあい自然観察会 ・水辺いきもの探索隊 ・市民参加型生き物調査(ちばレボ)	C	12	30	40%
	豊かな緑(水源林、谷津田など)の保全・創出	谷津田の保全協定締結面積	61.89ha	80.17ha	61.68ha	63.82ha (C)	64.88ha	前年度より1.06ha増加した。さらなる保全区域の拡大のため、地権者との継続的な交渉が必要である。	・地権者への理解促進	C			
	貴重な動植物の保護及び外来生物対策	貴重な生物(ハイケボタル、ニホンアカガエル)の生息数(※6)	1,632匹 2,089個	増加	1,609匹 2,032個	1,440匹 1,644個 (D)	1,256匹 2,828個	基準年度よりハイケボタルは約25%減少、ニホンアカガエルは約35%増加がみられた。生息数は天候等の影響により年度によって増減があるため、モニタリング及び生息の場の保全・維持を継続していくことが重要と考える。	・モニタリング調査を担う市民団体等の発掘、連携 ・貴重な生き物が生息している地点の把握	B			
		特定外来生物(哺乳類)の防除数(※3・6)	176頭	2,350頭	316頭	398頭 (計画期間累計) 398頭 (C)	499頭 (計画期間累計) 897頭	基準年度より増加し、前年度との比較でも約25%増加した。捕獲実績が年々増加していることから、生息数、生息域ともに拡大していると思われるため、引き続き対応を強化していくことが必要と考える。	・市民等への捕獲用ワナの無料貸出 ・集中捕獲事業の実施	B			
	生物多様性がもたらす資源の持続可能な利用	家庭系食品ロス量	3,824t (10.7g/人・日)	2,900t (8.3g/人・日)	3,592t	4,686t (D)	4,021t	前年度との比較では排出量が減少したものの、基準年度よりは増加した。目標達成に向けて、さらなる啓発活動の実施が必要である。	・食べきりキャンペーン ・食品ロス削減ワークショップ ・小中学校等における食品ロス削減の啓発 ・中学校家庭科教材「エコレシピ動画」の活用 ・食べきり協力店認定制度	D			
	地域の自然とふれあう機会の創出	(再掲)自然観察会等の参加者数・開催数(※3・6)	92人 5回	2,450人 140回	307人 14回 (※5)	285人 13回 (※5) (計画期間累計) 285人 13回 (C)	245人 14回 (計画期間累計) 530人 27回	(再掲)	(再掲)	C			
計画の推進体制の整備	人材の確保・育成	ボランティア育成講座の受講者数・開催数(※3)	17人 1回	1,200人 60回	75人 5回	72人 6回 (計画期間累計) 72人 6回 (C)	79人 6回 (計画期間累計) 151人 12回	基準年度より増加し、前年度との比較でも約10%増加した。啓発等の効果が参加者の増加に寄与したと考えられるが、引き続き目標達成に向けて、継続的な啓発活動の実施が必要と考えられる。	・自然体験教室の開催	C	4	15	27%
	ボランティア等の活動支援	地域環境保全自主活動事業補助金の交付団体数(※3)	1団体	30団体	0団体	0団体 (D)	0団体	2024年度は交付申請がなかった(2022年度以降申請なし)。府内でも他制度があることや、団体側の持ち出しがあることが利用が少ない理由と考えられる。	・千葉市民活動センターへの登録団体へのメールや市HP、過去に制度を利用した団体に向けて制度の周知 (※事業の見直しについて検討中)	D			
	市と市民等によるモニタリング体制の整備	貴重な生物(ハイケボタル、ニホンアカガエル等)のモニタリング地点数	3地点	14地点	4地点	4地点 (C)	4地点	モニタリング実施ポイントとして、従来の4地点で調査を実施した。目標達成に向けて引き続き生息の場の保全・確保が重要と考える。	・モニタリング調査を担う市民団体等の発掘、連携 ・貴重な生き物が生息している地点の把握	C			

※1 一部目標年度が異なるものがある。

※2 2023年4月に実施

※3 計画期間中の累計値

※4 計画に記載の数値(67%)が誤っていたため正しい数値に修正

※5 施策の方向性の趣旨を鑑み、再度集計

※6 千葉市環境基本計画と同一指標

評価について

環境基本計画の評価方法を参考に、指標ごとに次により進捗度の評価(S・A・B・C・D)を行い、得点をS…5点、A…4点、B…3点、C…2点、D…0点、配点を取組みの柱ごとの指標数×5とし、得点/配点で得点率を算出した。

・目標が数値で設定されている場合 現状値・目標値に対して当該年度の実績値がどの位置にあるかにより評価を行う。S…目標値以上、A…現状値+差分の60%以上～目標値未満、B…現状値+差分の30%以上～60%未満、C…現状値+差分の0%以上～30%未満、D…現状値未満

・目標が現状値からの増加(又は現状値・目標値ともに100%)として設定されている場合 現状値を上回った(維持した)時点で「S」、指標が複数の要素で構成されており現状値を片方のみ上回った場合は「B」、現状値以下(未満)だった場合は「D」とする。